

## 参考資料

海外におけるグローバル評価 その他事例

---

## 1 シンガポール

---

### 1-1 シンガポール国立研究財団（NRF）

#### 1-1-1 組織概要

シンガポール国立研究財団 (National Research Foundation of Singapore: NRF) は、以下の4つの任務を果たす目的で2006年1月1日に首相府に設置された<sup>34</sup>。

首相が議長を務める研究・イノベーション・企業評議会 (Research, Innovation and Enterprise Council: RIEC) の事務局として支援する。

国家の総合的枠組みの中で、異なる政府機関による研究の調整をはかり、戦略的な展望と方向性の一貫性を持たせる。

国家研究開発アジェンダに定められている5つの戦略的重点を実施するための政策と計画を作成する。

RIEC が承認した国家研究イノベーション企業戦略を実施し、NRF の戦略目的に適うプログラムに予算を配分する。



出典：NRF<sup>35</sup>

図1 NRF組織図

国家研究開発アジェンダには、以下の5つの戦略目的が重点として掲げられている<sup>36</sup>。2010年までに国家の研究開発支出をGDPの3%へと引き上げる。(2005年の時点では2.36%)

---

<sup>34</sup> NRF. <http://www.nrf.gov.sg/nrf/aboutus.aspx?id=92>

<sup>35</sup> NRF. <http://www.nrf.gov.sg/nrf/aboutus.aspx?id=112>

<sup>36</sup> NRF. <http://www.nrf.gov.sg/nrf/aboutus.aspx?id=92>

研究開発における戦略的分野を特定し、投資を行う。  
戦略的分野の中で、基礎研究と応用研究にバランスよく予算を組む。  
民間セクターの研究開発を奨励するためのリソースと支援を提供する。  
官民両セクターによる研究開発のつながりを強化する。

### 1-1-2 評価に関する取り組み

NRFの競争的研究支援制度(Competitive Research Programme: CRP)は、トップダウン式に決定される戦略研究プログラムを補足する形で、ボトムアップ式に研究企画を広く募り、予算を与える制度である。CRPのグラントは、関連するテーマのもとに行われる複数の研究プロジェクトから成る「プログラム」に対して提供され、プログラムごとのアワードの規模は3年から5年間で最高1,000万ドルとなっている<sup>37</sup>。研究企画の募集は通常、年に2回予定されており、特に既存のNRF戦略研究プログラムで取り上げていない分野の研究が優先的に選ばれる。CRPは学会と産業界の協業と提携を奨励することを目的としており、官民両セクターの研究者がアワードに応募できる。

シンガポールの大学や公共の機関・研究所、非営利病院、民間の研究所、企業、企業系研究所などの主任研究者(PI)に応募資格がある。アワードの対象となるのは、シンガポールで実施される研究に限られているほか、他のシンガポール政府機関による支援を既に受けている研究は対象外となる。

応募研究企画の評価は2段階に分かれている。第1段階では、国内の評価パネル(Local Evaluation Panel)が有望な企画の絞り込みを行い、この1次審査を通過した研究企画のPIに対して更に詳しい企画書の提出を求める。2次審査は、1次審査通過者が提出した詳しい企画書をもとに国際評価パネル<sup>38</sup>(International Evaluation Panel: IEP)がアワード受給者を選んで推薦する仕組みとなっている。IEPの議長は米国人で、8名から成るその他のパネルメンバーはノーベル賞受賞者を含む米国の科学者5名と欧州の科学者1名、そしてシンガポールの科学者2名で構成されている。

## 1-2 シンガポール科学技術研究庁(A\*STAR)

### 1-2-1 組織概要

シンガポール科学技術研究庁(Agency for Science, Technology and Research: A\*STAR)は、知識経済に基づく豊かで躍動的なシンガポールを実現するために、世界最高レベルの科学研究と能力の育成を目指す政府関係法人で、バイオ医療研究評議会(Biomedical Research Council: BMRC)や科学・工学研究評議会(Science & Engineering Research Council: SERC)などを含む5つの下部組織と事務局から成っている<sup>39</sup>。BMRCとSERCはそれぞれの管轄科学技術分野において、公共セクターの研究開発活動の支援と監督を行っている。

BMRCは2000年に設置され、政府研究機関や公立の大学・病院などにおける医学研究や学際研究など、医療の進歩につながる研究活動の支援と監督を行っている<sup>40</sup>。一方のSERCは、

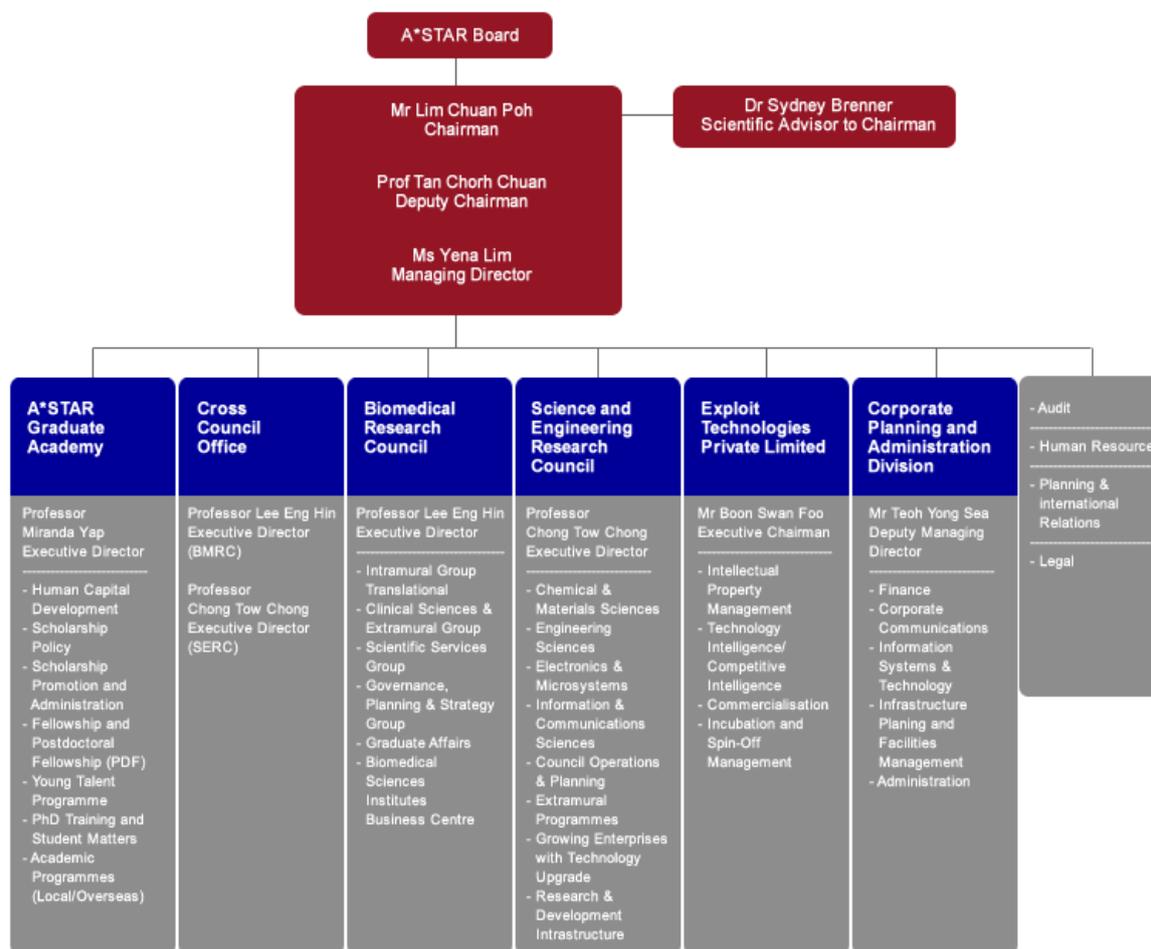
<sup>37</sup> NRF. <http://www.nrf.gov.sg/nrf/otherProgrammes.aspx?id=168>

<sup>38</sup> NRF. <http://www.nrf.gov.sg/nrf/otherProgrammes.aspx?id=178>

<sup>39</sup> A-STAR, [http://www.a-star.edu.sg/a\\_star/2-About-A-STAR](http://www.a-star.edu.sg/a_star/2-About-A-STAR)

<sup>40</sup> [http://www.a-star.edu.sg/biomedical\\_sciences/161-Biomedical-Research-Council](http://www.a-star.edu.sg/biomedical_sciences/161-Biomedical-Research-Council)

シンガポールの製造業(特にエレクトロニクス、情報通信、化学、精密工学などの分野)を重視した、公共セクターによる研究開発活動を支援・監督している<sup>41</sup>。



出典: A\*STAR<sup>42</sup>

図 2 A\*STAR の組織図

### 1-2-2 評価に関する取り組み

BMRCは、将来シンガポールがバイオ医療研究開発において世界のリーダー的存在にまで引き上げることを目指し、そのために必要な研究活動の支援と資金提供を行っている<sup>43</sup>。BMRCが2008年に実施したグラントの例(First SICS Grant Call 2008)では、公立の研究所、大学、病院などを含む公的機関の研究者らを対象としたこのグラントの審査方法として、要件を満たした全ての応募研究企画を、国際的諮問パネルが評価するとしている<sup>44</sup>。

<sup>41</sup> [http://www.a-star.edu.sg/science\\_and\\_engineering/317-Science-Engineering-Research-Council](http://www.a-star.edu.sg/science_and_engineering/317-Science-Engineering-Research-Council)

<sup>42</sup> [http://www.a-star.edu.sg/a\\_star/14-Organisation](http://www.a-star.edu.sg/a_star/14-Organisation)

<sup>43</sup> [http://www.a-star.edu.sg/biomedical\\_sciences/327-Extramural-Grants](http://www.a-star.edu.sg/biomedical_sciences/327-Extramural-Grants)

<sup>44</sup> [http://www.a-star.edu.sg/biomedical\\_sciences/327-Extramural-Grants](http://www.a-star.edu.sg/biomedical_sciences/327-Extramural-Grants)

---

## 2 中国

---

### 2-1 中国国家自然科学基金委員会 (NSFC) 及びデンマーク国立研究財団 (D NRF) による 2 国間研究協力

#### 2-1-1 組織概要

中国国家自然科学基金委員会 (National Natural Science Foundation of China: NSFC) は、政府の科学技術政策や方針に従って基礎研究と応用研究の調整と資金的支援を行ったり、科学技術分野の優秀な人材を育成して中国の社会と経済の発展につなげることを目的とした機関である<sup>45</sup>。全国の大学や研究機関から寄せられる研究企画についてピアレビューを実施し、グラント受給者の選抜を行っている<sup>46</sup>。

一方、デンマーク国立研究財団 (Danish National Research Foundation: D NRF) は、長期的な基礎研究に規模の大きい投資を行うことでデンマークにおける研究開発の強化を進めている機関であり、「センター・オブ・エクセレンス」の設置を重視した活動を展開している<sup>47</sup>。

この両機関は、ナノテク分野で合同研究プログラムを実施しており、以下ではそのプログラムに限定した評価に関する取り組みについて説明している<sup>48</sup>。

#### 2-1-2 評価に関連する取り組み

2008 年 9 月に募集が締め切られた最近のナノテク合同研究公募では、審査基準として、以下の点が重視された<sup>49</sup>。

- 科学的な研究の質の高さ
- 共同研究を行うことによる付加価値
- 研究を実施する上での、提携機関の間の相互補完性の高さ

評価の方法は国際的な審査員によるピアレビューで、できるだけ中国人とデンマーク人以外の審査員による評価が望ましいとされている。D NRF と NSFC の理事会が審査員らの意見を参考にして最終的な受給者を決定している<sup>50</sup>。

---

<sup>45</sup> <http://www.nsf.gov.cn/english/01au/02mr.html>

<sup>46</sup> <http://www.nsf.gov.cn/english/01au/02mr.html>

<sup>47</sup> <http://www.dg.dk/>

<sup>48</sup> [http://www.nsf.gov.cn/nsfc/fj/20080519\\_fj01.doc](http://www.nsf.gov.cn/nsfc/fj/20080519_fj01.doc)

<sup>49</sup> [http://www.nsf.gov.cn/nsfc/fj/20080519\\_fj01.doc](http://www.nsf.gov.cn/nsfc/fj/20080519_fj01.doc)

<sup>50</sup> [http://www.nsf.gov.cn/nsfc/fj/20080519\\_fj01.doc](http://www.nsf.gov.cn/nsfc/fj/20080519_fj01.doc)

---

## 3 韓国

---

### 3-1 韓国教育科学技術部(MEST)

#### 3-1-1 組織概要

韓国教育科学技術部(Ministry of Education, Science and Technology: MEST)は、一流の先進国と最先端の科学技術国家を目指して、教育の活性化と科学技術分野の発展、および人材育成に力を入れている<sup>51</sup>。2008年2月にの政府組織再編にともなって、それまでの教育人的資源部と科学技術部が統合されてひとつの新しい政府機関となった<sup>52</sup>。

#### 3-1-2 評価に関連する取り組み

MESTでは、2008年から2012年にかけて、韓国の大学を世界レベルの水準へと引き上げる国家プロジェクト(Towards Building World Class Universities: WCU)を立ち上げ、科学論文の引用件数の増加や大学の国際競争力強化、頭脳流出の防止対策などを視野に入れた、科学技術分野の人材育成と研究開発促進に乗り出している<sup>53</sup>。

同プロジェクトのもとに寄せられる応募研究企画は、3段階の審査を通じて評価される。第1段階は専門家パネルによるピアレビュー方式で行われる。パネルは、専門分野ごとに約10名の専門家によって構成され、該当分野の専門家パネルが各研究企画の評価を実施する。第2段階は、外国人の専門家が候補企画を提出した研究者の主な論文を読んで評価し、第3段階の包括的なパネル審査の後に、3つの全段階の結果を総合して最終的な支援受給者が決まる<sup>54</sup>。最終選考における3段階の各審査の比重は、第1段階が60%、第2段階が30%、第3段階が10%となっている。

---

<sup>51</sup> <http://english.mest.go.kr/main.jsp?idx=0103010101>

<sup>52</sup>

[http://english.mest.go.kr/main.jsp?idx=0601010101&brd\\_no=30&cp=5&pageSize=10&srchSel=&srchVal=&brd\\_main\\_no=713&mode=v](http://english.mest.go.kr/main.jsp?idx=0601010101&brd_no=30&cp=5&pageSize=10&srchSel=&srchVal=&brd_main_no=713&mode=v)

<sup>53</sup> [http://www.kosef.re.kr/eboard/common/download.php?part=&code=n\\_002&no=50&catid=](http://www.kosef.re.kr/eboard/common/download.php?part=&code=n_002&no=50&catid=) p.11

<sup>54</sup> [http://www.kosef.re.kr/eboard/common/download.php?part=&code=n\\_002&no=50&catid=](http://www.kosef.re.kr/eboard/common/download.php?part=&code=n_002&no=50&catid=) p.11

---

## 4 ニュージーランド

---

### 4-1 ニュージーランド王立協会 (Royal Society of New Zealand: RSNZ)

#### 4-1-1 組織概要

ニュージーランド王立協会 (RSNZ) は 1867 年に英国の王立協会をモデルに設置され、1997 年以降は同年に成立したニュージーランド王立協会法に基づいて、ニュージーランドにおける科学技術の発達と促進を目的とした活動を実施している<sup>55</sup>。学校や産業、社会などにおいて科学技術を促進し、研究開発の支援を行っているほか、科学専門誌の発行や政府への助言、国際研究開発協力の奨励などに力を入れている<sup>56</sup>。同協会は、優先的に取り組むべき戦略的課題として以下の 5 つを掲げている<sup>57</sup>。

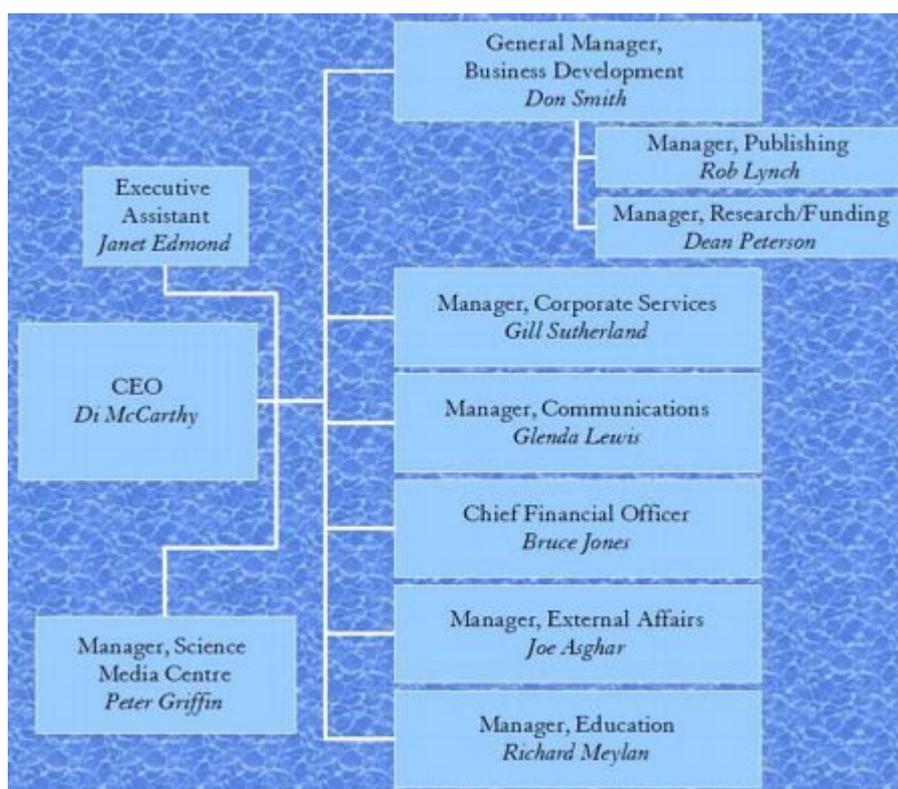
- 科学技術に関する情報の普及
- 科学研究開発の方向性の提示と支援、およびニュージーランドの科学技術の発展に貢献する人材の育成
- イノベーションの商用化奨励
- 研究システムや科学に関連した、専門的知識に基づく見解の提供
- 科学技術教育の強化

---

<sup>55</sup> [http://www.royalsociety.org.nz/Site/About/Governance/Strategic\\_priorities.aspx](http://www.royalsociety.org.nz/Site/About/Governance/Strategic_priorities.aspx)

<sup>56</sup> <http://www.royalsociety.org.nz/Site/About/Who.aspx>

<sup>57</sup> [http://www.royalsociety.org.nz/Site/About/Governance/Strategic\\_priorities.aspx](http://www.royalsociety.org.nz/Site/About/Governance/Strategic_priorities.aspx)



出典：RSNZ<sup>58</sup>

図3 RSNZの組織図

#### 4-1-2 評価に関連する取り組み

RSNZは政府の予算による研究支援制度の運営を行っており、支援対象研究企画の選抜には透明かつ極めて公正な手続きを採用しているとしている<sup>59</sup>。審査作業への外国人専門家の参加については具体的に明記されていないものの、RSNZの最新年次報告書(2006年度版)には、「RSNZは広範にわたる研究関連活動を展開しているため、国内のみならず海外の研究コミュニティとも幅広いつながりがあり、グラント審査員や専門誌の編集委員の任務を依頼すべき適任者を把握している<sup>60</sup>」との記述があり、ピアレビューの際に海外からの審査員を動員していることが読み取れる。

RSNZでは単にグラントを運営するだけでなく、ファンディングのプロセスを常に改善するとともに、投資の成果のモニターと評価も行っている<sup>61</sup>。

<sup>58</sup> [http://www.royalsociety.org.nz/Site/About/Our\\_structure/Organisational\\_Chart.aspx](http://www.royalsociety.org.nz/Site/About/Our_structure/Organisational_Chart.aspx)

<sup>59</sup> <http://www.royalsociety.org.nz/site/funding/evaluation/rsnzevaluationreports.aspx> p.11

<sup>60</sup> <http://www.royalsociety.org.nz/site/funding/evaluation/rsnzevaluationreports.aspx> p.11

<sup>61</sup> <http://www.royalsociety.org.nz/site/funding/evaluation/rsnzevaluationreports.aspx> p.11

---

## 5 台湾

---

### 5-1 台湾国家衛生研究院(National Health Research Institute: NHRI) [補足]

#### 5-1-1 組織概要

台湾国家衛生研究院(NHRI)は、政府の行政院衛生署(Department of Health)の傘下に1996年1月に設置された非営利研究財団で、医学研究の強化と医療の改善を主目的として、次のような活動を行っている<sup>62</sup>。

- 台湾の医療分野における科学技術開発の方針を計画する。
- 国内の医学機関で実施されている研究活動の調整、統合、支援を行う。
- 若手の科学者と医師の教育を強化する。
- 研究プロジェクトとその進捗状況の評価について、目標と公正な評価システムを確立する。
- 情報交換を促し、国内外の研究協力を奨励する。

NHRIは、独自の研究部門で研究を行っているほか、国内にある官民両セクターの研究機関が実施している研究の資金を提供している。また、医療部門の科学者育成にも力を入れており、学生の夏期研究トレーニングから専門分野の医師の育成に至るまで、世界レベルの医療研究を行える人材の開発を目指した活動を展開している<sup>63</sup>。NHRIはさらに、外部の医療研究機関や病院との共同研究プロジェクトも多数行っているほか、外国人研究者向けにNHRIで訓練を受ける機会やNHRIでの共同研究に参加する機会を提供している。また、必要性が高い医療研究課題に複数の研究機関が協力して取り組むことで短期間に成果を上げるタイプの合同研究プロジェクトを奨励し、グラントを支給したり、契約を結んだりしている<sup>64</sup>。

#### 5-1-2 評価に関連する取り組み

1992年以来、NHRIの外部研究部門(Extramural Research Affairs Department: ERAD)は医療研究ファンディング機関として、国内の医療研究にグラントを提供している。グラントは以下の3種類に分かれている<sup>65</sup>。

- プログラム・プロジェクト・グラント(Program Project Grant: PPG)  
同一研究分野内の研究プロジェクトの統合や調整を重視するグラント
- イノベーティブ・リサーチ・グラント(Innovative Research Grant: IRG)  
研究者による、独創性が高く、革新的な研究を重視するグラント
- キャリア開発グラント(Career Development Grant: CDG)

---

<sup>62</sup> <http://english.nhri.org.tw/>

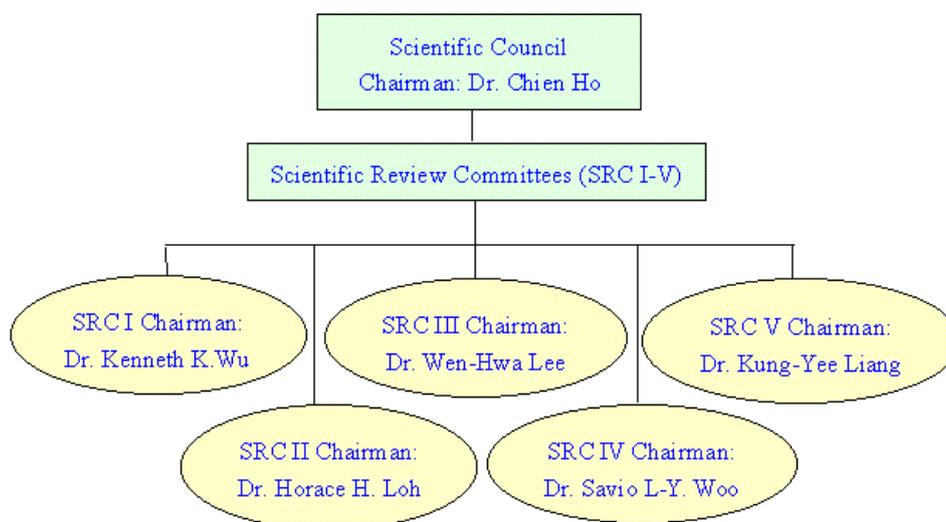
<sup>63</sup> <http://www.nhri.org.tw/index/eindex.php3>

<sup>64</sup> <http://www.nhri.org.tw/index/eindex.php3>

<sup>65</sup> [http://www.nhri.org.tw/nhri\\_org/ex/index\\_intro.html](http://www.nhri.org.tw/nhri_org/ex/index_intro.html)

## 若手研究者による研究を奨励するグラント

ERAD には、外国人を含む 60 名以上の医療・健康分野の専門家から成る科学評議会があり、同評議会は科学評議会と 5 つの科学審査委員会、および PPG グラント委員会で構成されている。



出典: ERAD<sup>66</sup>

図 4 ERAD の組織図

ERADでは、審査が客観的かつ公正なものとなるよう、研究プロジェクトの評価にピアレビュー方式を取り入れている。応募研究企画のうちグラントを受給するのは全体の約 20%から 30%程度となっている<sup>67</sup>。また、グラントを受けた研究プロジェクトの進捗状況や結果を評価するため、主任研究者に四半期ごとの報告書の提出を義務付けているほか、研究終了時にも研究成果を報告書にまとめて提出することを求めている。提出された報告書は、その研究者の将来のグラント審査においても考慮材料とされるほか、必要に応じて一般にも公開される<sup>68</sup>。さらに、科学審査委員会のメンバーがグラント支給先の研究現場を訪問し、プロジェクトの進み具合や成果、問題点などの評価を行うこともある<sup>69</sup>。

<sup>66</sup> [http://www.nhri.org.tw/nhri\\_org/ex/index\\_intro.html](http://www.nhri.org.tw/nhri_org/ex/index_intro.html)

<sup>67</sup> [http://www.nhri.org.tw/nhri\\_org/ex/index\\_intro.html](http://www.nhri.org.tw/nhri_org/ex/index_intro.html)

<sup>68</sup> [http://www.nhri.org.tw/nhri\\_org/ex/index\\_intro.html](http://www.nhri.org.tw/nhri_org/ex/index_intro.html)

<sup>69</sup> [http://www.nhri.org.tw/nhri\\_org/ex/index\\_intro.html](http://www.nhri.org.tw/nhri_org/ex/index_intro.html)

---

## 6 EU

---

### 6-1 FP7

#### 6-1-1 組織概要

FP7(The Seventh Framework Programme for research and technological development)は欧州連合(EU)の科学技術研究支援制度で、期間は2007年から2013年となっている<sup>70</sup>。EUにおける研究関連のイニシアチブを1ヵ所に集め、欧州産業の科学技術基盤と競争力の強化、雇用の増加などにつなげることを狙いとしている<sup>71</sup>。

FP7の支援分野は、協力(Cooperation、国際協力による研究)、アイデア(Ideas、最先端の基礎研究)、人材(People、人材の育成やキャリア開発)、能力(Capacities、欧州全体の研究能力を高めるインフラの整備や国際協力制度など)、という4つのカテゴリーに大きく分類されている<sup>72</sup>。FP7の予算総額は500億ユーロ以上で、前回のFP6の予算を大幅に上回っている。各国独自の国家的研究支援プログラムと違い、FP7を通じた支援は複数国の研究機関が協力して行う研究プロジェクトのためのグラントや、国境を越えて移動する研究者や学生のためのフェローシップ、ひとつの国では実現が難しく欧州全体で取り組むべき複雑な研究などを主な対象としている<sup>73</sup>。

#### 6-1-2 評価に関連する取り組み

FP7のICT分野の公募における評価体制を例にとると、応募研究プロジェクトは全て、①科学・技術面の質の高さ、②研究プロジェクトの実施と管理における質と効率の高さ、③その研究プロジェクトの結果がもたらす影響、という3つの審査基準について、外部の専門家が評価を行う。1次審査は応募プロジェクトごとに5人以上の専門家がEC<sup>74</sup>の依頼を受けて上記の3つの基準について評価を行い、0から5までの点数を付ける<sup>75</sup>。次に、これら5人以上の専門家が話し合い、合意に達した点数を「合意報告書(Consensus Report: CR)」にまとめ、評価に携わった専門家全員が署名した上でECに提出する。さらに、審査員による最終的評価ステップとして専門家パネルがCRを読み、CRで高得点を取得したプロジェクトの責任者との面談を行い、CRに指摘されている疑問点や問題点を解消し、同じ得点を取得したプロジェクトの優先順位の考慮や、複数の応募プロジェクトを組み合わせるなどの提案を行う<sup>76</sup>。

---

<sup>70</sup> [http://cordis.europa.eu/home\\_en.html](http://cordis.europa.eu/home_en.html)

<sup>71</sup> [http://cordis.europa.eu/fp7/understand\\_en.html](http://cordis.europa.eu/fp7/understand_en.html)

<sup>72</sup> [http://cordis.europa.eu/fp7/understand\\_en.html](http://cordis.europa.eu/fp7/understand_en.html)

<sup>73</sup> [http://ec.europa.eu/research/fp7/understanding/fp7inbrief/what-is\\_en.html](http://ec.europa.eu/research/fp7/understanding/fp7inbrief/what-is_en.html)

<sup>74</sup> 評価の提出などは、EUという枠組みを組織しているEC(European Community)が主体となる。

<sup>75</sup> <http://ra.haifa.ac.il/FileRa/Guide%20for%20Applicants%20-%20NoE.pdf> pp.26-30

<sup>76</sup> <http://ra.haifa.ac.il/FileRa/Guide%20for%20Applicants%20-%20NoE.pdf> pp.26-30

---

## 7 ドイツ

---

### 7-1 マックス・プランク学術振興協会(補足)

#### 7-1-1 組織概要

マックス・プランク協会(Max Planck Society for the Advancement of Sciences: MPG)は、カイザー・ヴィルヘルム協会(Kaiser Wilhelm Society)の活動を継承して1948年2月に創立された、ドイツを代表する独立非営利学術研究機関である<sup>77</sup>。研究分野は自然科学、生命科学、社会科学、人文科学で、特に公益を念頭に置いた基礎研究を重視し、ドイツの大学では予算や設備などの関係で実施が困難なタイプの新しい分野の研究や学際的イノベーション研究を中心に実施している<sup>78</sup>。政府機関ではないが、予算の大部分は連邦政府と州政府から得ている<sup>79</sup>。内訳は、連邦政府や州政府からの公的財源による基盤的収入が約80パーセントで、残りの20パーセントは各種プロジェクト収入などで賄われている<sup>80</sup>。

同協会には、計76の研究所と3つの研究施設があり、2008年1月の時点での総職員数は約1万3,000人、そのうち科学者は約4,700人となっている。また、学生アシスタントや、国際マックス・プランク研究スクールの学生、博士課程の学生、ポスドク、研究フェロー、客員研究員なども約1万1,850人いる<sup>81</sup>。

---

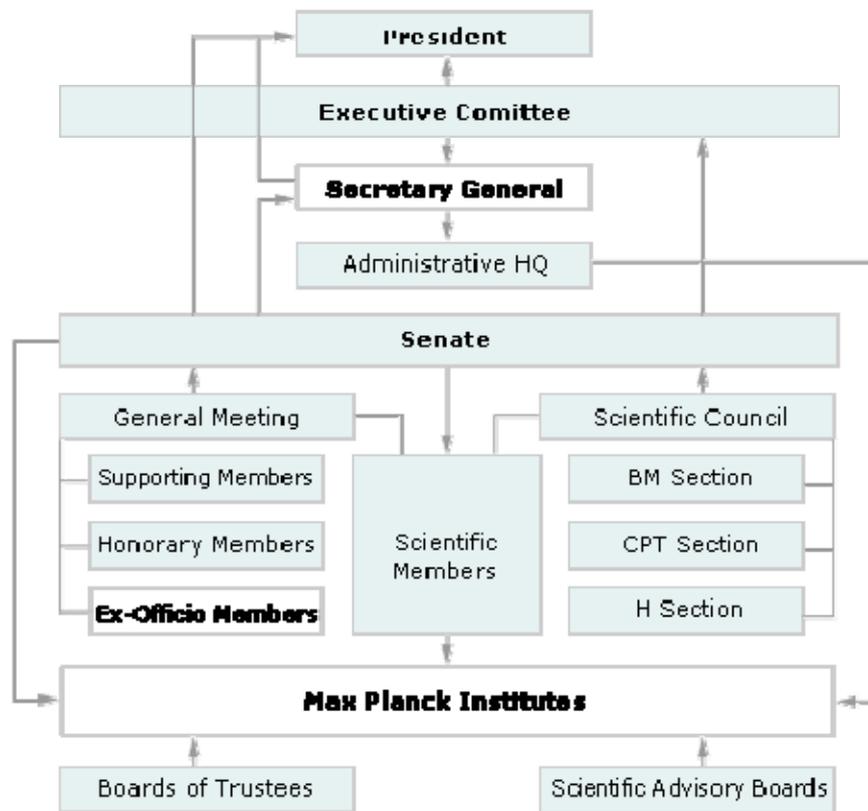
<sup>77</sup> <http://www.mpg.de/english/aboutTheSociety/aboutUs/index.html>

<sup>78</sup> <http://www.mpg.de/english/aboutTheSociety/aboutUs/index.html>

<sup>79</sup> <http://www.mpg.de/english/aboutTheSociety/aboutUs/organization/index.html>

<sup>80</sup> <http://www.mpg.de/english/aboutTheSociety/aboutUs/factsAndFigures/index.html>

<sup>81</sup> <http://www.mpg.de/english/aboutTheSociety/aboutUs/factsAndFigures/index.html>



出典: MPG<sup>82</sup>

図 5 MPG の組織図

### 7-1-2 評価に関連する取り組み

同協会の各研究所について、2 年ごとに評価が行われている。評価作業は独立科学諮問委員会 (Scientific Advisory Board) が行うが、同委員会の 90 パーセント以上は外部研究機関のメンバーで構成され、全体の半数以上は外国から招かれる<sup>83</sup>。科学諮問委員会は 1970 年代初期に設置されるようになり、現在では同協会の全ての研究所に設置が義務付けられている<sup>84</sup>。こうした組織評価は、激化する国際競争の中で、マックス・プランク協会における研究が高質で効率的に行われることを期するための重要な評価基準であると同協会では考えている<sup>85</sup>。

マックス・プランク協会の研究所に関する評価作業には年間 250 人以上の専門家が参加しており、その中にはノーベル賞受賞者も 10 人含まれている<sup>86</sup>。評価作業を行うこれらの専門家

<sup>82</sup> <http://www.mpg.de/english/aboutTheSociety/aboutUs/organization/index.html>

<sup>83</sup> <http://www.mpg.de/english/aboutTheSociety/aboutUs/scientificEvaluation/index.html>

<sup>84</sup> [http://www.mpg.de/pdf/evaluation\\_2002\\_06\\_en.pdf](http://www.mpg.de/pdf/evaluation_2002_06_en.pdf) p.19

<sup>85</sup> [http://www.mpg.de/pdf/evaluation\\_2002\\_06\\_en.pdf](http://www.mpg.de/pdf/evaluation_2002_06_en.pdf) p11

<sup>86</sup> [http://www.mpg.de/pdf/evaluation\\_2002\\_06\\_en.pdf](http://www.mpg.de/pdf/evaluation_2002_06_en.pdf) p.11

は全て、報酬を受け取らないボランティアベースで協力している。

## 7-2 ヘルムホルツ協会

### 7-2-1 組織概要

ヘルムホルツ協会 (Helmholtz Association) は、それまで非公式で緩いつながりしか無かったドイツ国内の様々な研究センターを正式に結びつける形で 1958 年に設立された<sup>87</sup>。設立当初は、安全性関連の情報交換や、規模の大きい研究センターに共通する問題を話し合うことなどが活動の中心であった。現在、同協会は 15 の研究センターを擁し、社会や産業が抱える難題の解決に貢献すべく、エネルギー、地球と環境、健康、基盤技術、物質の構造、輸送と宇宙、という 6 つに大別された分野の研究を実施している<sup>88</sup>。

15 ヶ所の研究所の職員総数は約 2 万 8,000 人にのぼり、ドイツの科学研究機関としては最大規模である<sup>89</sup>。また、年間予算は約 24 億ユーロで、この予算のうち 70% は、連邦政府と州政府が 9 対 1 の割合で負担し、残りの 30% は研究センターが契約金として獲得している<sup>90</sup>。同協会は、研究センター横断型の協力の枠組みを提供したり、長期的計画を可能にしたり、世界に類の無い大規模なプロジェクトを実現させるなどの役割を果たしている<sup>91</sup>。基礎科学に大きく貢献して 6 つの研究分野全てにおいて世界のトップに立ち、複雑な課題に全体的に取り組んで適切なソリューションを見つけることを目指しているほか、基礎から研究して応用に結びつけ、適切な方法や技術、サービスを開発して政策決定者に提言することなどを目標としている<sup>92</sup>。

### 7-2-2 評価に関連する取り組み

ヘルムホルツ協会には、協会内部のメンバーで構成される Assembly of Members と、連邦・州政府や産業界、他の研究機関などの代表者で構成される Senate というふたつの意思決定グループがあり、このうち、Senate が世界中から著名な外部の専門家を選んで評価を依頼し、その評価結果を分析して将来の協会の方向性を決める役割を果たしている<sup>93</sup>。Senate は、同協会の主な資金源である連邦政府や州政府などに対して、各研究プログラムや研究分野の予算配分について提案書を提出するが、その際に、この外部評価の結果が予算提案の根拠となる資料として用いられる<sup>94</sup>。

ヘルムホルツ協会では、内部の研究センターの予算と、外部の研究者に提供する研究グラントの予算の両方について、基本的にはほぼ全て競争によって分配を決めている。競争の審査はピアレビュー方式で行われ、2006 年度だけでも研究公募の審査パネルメンバーとして評価作業に従事した専門家の数は 200 人以上にのぼっている。また、その大部分は外国人であっ

<sup>87</sup> [http://www.helmholtz.de/en/about\\_us/history\\_of\\_the\\_helmholtz\\_association/](http://www.helmholtz.de/en/about_us/history_of_the_helmholtz_association/)

<sup>88</sup> [http://www.helmholtz.de/en/about\\_us/history\\_of\\_the\\_helmholtz\\_association/](http://www.helmholtz.de/en/about_us/history_of_the_helmholtz_association/)

<sup>89</sup> <http://www.helmholtz.de/en/>

<sup>90</sup> [http://www.helmholtz.de/en/about\\_us/profile/](http://www.helmholtz.de/en/about_us/profile/)

<sup>91</sup> [http://www.helmholtz.de/en/about\\_us/strategy/](http://www.helmholtz.de/en/about_us/strategy/)

<sup>92</sup> [http://www.helmholtz.de/en/about\\_us/strategy/](http://www.helmholtz.de/en/about_us/strategy/)

<sup>93</sup> [http://www.helmholtz.de/en/about\\_us/organisation/](http://www.helmholtz.de/en/about_us/organisation/)

<sup>94</sup> [http://www.helmholtz.de/en/about\\_us/organisation/](http://www.helmholtz.de/en/about_us/organisation/)

[http://www.helmholtz.de/en/about\\_us/programmeoriented\\_funding/](http://www.helmholtz.de/en/about_us/programmeoriented_funding/)

た<sup>95</sup>。

---

## 8 フランス

---

### 8-1 フランス国立研究機構

#### 8-1-1 組織概要

フランス国立研究機構 (French National Research Agency/ L'Agence nationale de la recherche: ANR) は、2005 年 2 月に一時的な位置づけである公益団体 (GIP) として発足し、その後、2006 年 4 月に成立した「研究のための長期計画法 (研究協約)」<sup>96</sup> と 2006 年 8 月に発効したデクレ<sup>97</sup> (政令) に基づいて、2007 年 1 月 1 日に正式な公的機関 (EPA) として設立された研究ファンディング機関である<sup>98</sup>。ANR は科学分野において実施される研究数を増やし、公募とピアレビューを通じて選ばれた研究企画に資金を提供することを目的としており<sup>99</sup>、新たな知識を生み出すことや、公的研究所と民間研究所による協力関係を促進することをミッションに掲げている。2007 年の研究プロジェクト向け予算は 8 億 2,500 万ユーロであった<sup>100</sup>。

ANR には、テーマ別に以下の各部門が置かれている<sup>101</sup>。

- 持続可能なエネルギーと環境
- 情報通信の科学技術
- 工学・プロセス・安全性
- 生物学と健康
- エコシステムと持続可能な開発
- 人文・社会科学
- テーマ別ではないプログラム
- 分野横断型プログラム

#### 8-1-2 評価に関連する取り組み

ANR では、研究公募を通じて寄せられた研究企画について、科学的な質の高さと産業界に与える経済的影響を主な基準としたピアレビュー方式の評価を行い、グラントを支給する研究企画を選抜している<sup>102</sup>。2007 年には計 50 の公募 (calls for proposal: CFP) が実施され、それに対して 5, 636 件の応募があり<sup>103</sup>、最終的にファンディングの対象に選ばれたのは 1, 430 件

---

<sup>95</sup> [http://www.helmholtz.de/en/research/promoting\\_research/](http://www.helmholtz.de/en/research/promoting_research/)

<sup>96</sup> <http://crds.jst.go.jp/kaigai/report/TR/EU/EU20080619.pdf> p.26

<sup>97</sup> <http://www.agence-nationale-recherche.fr/documents/uploaded/2008/decret-1er-aout-version-UK.pdf>

<sup>98</sup> <http://www.agence-nationale-recherche.fr/Intl>

<sup>99</sup> <http://www.agence-nationale-recherche.fr/Intl>

<sup>100</sup> <http://www.agence-nationale-recherche.fr/Intl>

<sup>101</sup> <http://www.agence-nationale-recherche.fr/DeptUK>

<sup>102</sup> <http://www.agence-nationale-recherche.fr/Intl>

<sup>103</sup> <http://www.agence-nationale-recherche.fr/documents/uploaded/2008/ANR-Annual-Report-2007.pdf> p.4

(全体の 25.4%)であった<sup>104</sup>。審査には 1 万 350 人以上の外部の専門家が携わり、そのうち 28.6%にあたる約 3,000 人が外国人であった<sup>105</sup> (2006 年は 1 万 100 人の審査員中、22.5%にあたる約 2,200 人が外国人専門家)。ANRは欧州やその他の外国の科学専門家による評価作業への参加を奨励しており、審査員の中に占める外国人の割合は年々増えている<sup>106</sup>。2010 年までには、評価の約 30%を外国人審査員が行う体制づくりを目指している<sup>107</sup>。ANRは、外国のファンディング機関との合同公募を通じて、国際的な専門家の共通データベース作りなども行っている<sup>108</sup>。

## 8-2 フランス国立研究機構/ 英国バイオテクノロジー・生物科学研究会議 (合同プロジェクト評価)

### 8-2-1 組織概要

フランス国立研究機構 (ANR) と英国バイオテクノロジー・生物科学研究会議 (Biotechnology and Biological Sciences Research Council: BBSRC) は、科学研究における英仏間の協力を育むことに合意し、両国からの研究チームの協力によって実施されるシステム生物学の研究を2007年に合同公募した<sup>109</sup>。英国とフランスの国立ファンディング機関が協力することで、一国家のレベルだけでは得にくい高いスキルや専門知識を持つ研究者を集めて研究資金を提供し、相互の利益につなげることを目的としている。また、こうした国際協力により、国家レベルだけでなく、欧州全体でのシステム生物学発展の実現につなげることも目指している<sup>110</sup>。

### 8-2-2 評価に関連する取り組み

応募研究企画の審査は、国際的な専門家パネルによるピアレビュー形式で行われる。審査にあたって、以下の基準が重視される<sup>111</sup>。

- 科学的な質の高さ
- 相互的な研究の進展
- データの共有やデータ管理など、国際協業による付加価値
- 倫理や環境など社会的課題、および知的・文化的発展への貢献
- 若手研究者育成への貢献

---

<sup>104</sup> <http://www.agence-nationale-recherche.fr/documents/uploaded/2008/ANR-Annual-Report-2007.pdf> p.5

<sup>105</sup> <http://www.agence-nationale-recherche.fr/documents/uploaded/2008/ANR-Annual-Report-2007.pdf> p.5

<sup>106</sup> <http://www.agence-nationale-recherche.fr/documents/uploaded/2008/ANR-Annual-Report-2007.pdf> p.50

<sup>107</sup> <http://crds.jst.go.jp/kaigai/report/TR/EU/EU20080619.pdf> p.29

<sup>108</sup> <http://www.agence-nationale-recherche.fr/documents/uploaded/2008/ANR-Annual-Report-2007.pdf> p.50

<sup>109</sup> <http://www.agence-nationale-recherche.fr/documents/aap/2007/aap-ANR-BBSRC-SysBio-2007.pdf>

<sup>110</sup> <http://www.agence-nationale-recherche.fr/documents/aap/2007/aap-ANR-BBSRC-SysBio-2007.pdf>

<sup>111</sup> <http://www.agence-nationale-recherche.fr/documents/aap/2007/aap-ANR-BBSRC-SysBio-2007.pdf> Peer

- プロジェクトの構成
- 実行の可能性
- 影響、将来性、予期される結果

ピアレビューを行うのは、ANRとBBSRCが選んだ国際的に著名な専門家のパネルで、英国とフランス、その他の欧州の国々の専門家を含む、約20人で構成される<sup>112</sup>。また、応募者やパネルのメンバーが推薦する外部の審査員も研究提案についてコメントを提出し、審査に協力するよう要請される。外部審査員のコメントに対し、応募者は7日以内に返答や説明をすることができ、このやりとりの内容はパネルメンバーにも公開されて審査の参考とされる。

---

<sup>112</sup> <http://www.agence-nationale-recherche.fr/documents/aap/2007/aap-ANR-BBSRC-SysBio-2007.pdf> Peer

---

## 9 英国

---

### 9-1 英国喘息協会

#### 9-1-1 組織概要

英国喘息協会 (Athuma UK) は、英国に 540 万人いる喘息患者の健康の改善と福利の向上を目指し、喘息に関する専門的知識の構築と共有を進めている慈善団体で、喘息に関する知識を広めたり、医療政策決定者に働きかけるなどの活動をしているほか、年間約 300 万ポンドを喘息の研究に投資している<sup>113</sup>。同協会がこれまでに研究支援に費やした額は、約 5,000 万ポンドにのぼっている<sup>114</sup>。資金は寄付によって賄われている<sup>115</sup>。

同協会が手掛ける研究プログラムは、喘息の原因などの基礎研究と、治療方法などの臨床研究の 2 種類に大別され、主に大学や病院での研究を支援している<sup>116</sup>。支援対象は英国の研究グループによる研究であるが、外国との協力で実施される研究が英国の喘息患者の利益につながるとみなされる場合には支援対象として考慮する方針をとっている<sup>117</sup>。

#### 9-1-2 評価に関連する取り組み

英国喘息協会は毎年、ウェブサイトや研究者向け出版物などを通じて研究プロジェクトを募集している<sup>118</sup>。応募プロジェクトはまず、外部の専門家によるピアレビューにかけられる。このピアレビューでは、世界中から選ばれた専門家が応募研究企画を検討し、必要に応じて応募者に疑問点について質問する<sup>119</sup>。これに対し、応募者側は一定期間内に説明を提出する機会を与えられる。このピアレビューの結果が出ると、同協会の研究委員会 (Research Committee) が全ての応募研究企画とそれに関する外部審査員のコメントについて話し合い、この話し合いの結果をもとに、支援する研究プロジェクトを選んで同協会の理事会に提案し、理事会が最終的に支援プロジェクトを決定するという流れになっている<sup>120</sup>。

---

<sup>113</sup> [http://www.asthma.org.uk/about\\_asthma\\_uk.html](http://www.asthma.org.uk/about_asthma_uk.html)

<sup>114</sup>

[http://www.asthma.org.uk/how\\_we\\_help/funding\\_research/frequently\\_asked\\_questions\\_about\\_research/index.html#how\\_is\\_asthma\\_uk\\_involved\\_in\\_research](http://www.asthma.org.uk/how_we_help/funding_research/frequently_asked_questions_about_research/index.html#how_is_asthma_uk_involved_in_research)

<sup>115</sup> [http://www.asthma.org.uk/about\\_asthma\\_uk.html](http://www.asthma.org.uk/about_asthma_uk.html)

<sup>116</sup>

[http://www.asthma.org.uk/how\\_we\\_help/funding\\_research/frequently\\_asked\\_questions\\_about\\_research/index.html#how\\_is\\_asthma\\_uk\\_involved\\_in\\_research](http://www.asthma.org.uk/how_we_help/funding_research/frequently_asked_questions_about_research/index.html#how_is_asthma_uk_involved_in_research)

<sup>117</sup> [http://www.asthma.org.uk/how\\_we\\_help/funding\\_research/frequently\\_asked\\_questions\\_about\\_research/index.html#how\\_is\\_asthma\\_uk\\_involved\\_in\\_research](http://www.asthma.org.uk/how_we_help/funding_research/frequently_asked_questions_about_research/index.html#how_is_asthma_uk_involved_in_research)

<sup>118</sup>

[http://www.asthma.org.uk/how\\_we\\_help/funding\\_research/frequently\\_asked\\_questions\\_about\\_research/index.html#how\\_is\\_asthma\\_uk\\_involved\\_in\\_research](http://www.asthma.org.uk/how_we_help/funding_research/frequently_asked_questions_about_research/index.html#how_is_asthma_uk_involved_in_research)

<sup>119</sup> [http://www.asthma.org.uk/researchers/apply\\_for\\_funding/research\\_project\\_fun.html](http://www.asthma.org.uk/researchers/apply_for_funding/research_project_fun.html)

<sup>120</sup> [http://www.asthma.org.uk/researchers/apply\\_for\\_funding/research\\_project\\_fun.html](http://www.asthma.org.uk/researchers/apply_for_funding/research_project_fun.html)

## 9-2 英国腎臓研究協会

### 9-2-1 組織概要

英国腎臓研究協会(Kidney Research UK)は、腎臓病の予防と治療、管理に関する研究の資金を提供する慈善団体で、1961年に設立された<sup>121</sup>。寄付を募って資金を集め、治療法の改善につながる研究の支援と腎臓病に関する知識を広めるための活動を中心に行っている<sup>122</sup>。同協会が1985年以来、これまでに3,000万ポンド以上を腎臓病治療の研究に投資しており、現在は75件の研究プロジェクトに約780万ポンドを費やしている。これらの研究プロジェクトの期間は平均2年から3年となっている。同協会は2006年に組織を再編して経費を削減し、より多くの寄付金が直接研究支援に使われるようにし、寄付金の62%を研究に投資して、残る38%で寄付金集めの活動を行っている<sup>123</sup>。

### 9-2-2 評価に関連する取り組み

研究公募に寄せられた研究企画の評価は、同協会の研究グラント委員会(Research Grant Committee)と、外部審査員(External Reviewers)によるピアレビュー方式で行われる。応募者が審査員候補者を推薦することが可能で、特に海外の専門家を歓迎する方針を明らかにしている。ただし、応募者が推薦した審査員候補者が実際に審査に参加するかどうかは協会側が決める。研究グラント委員会は、外部審査員の意見を参考にして最終的にグラントを支給する研究企画を選び、全ての応募者にフィードバックとともに結果を通知している<sup>124</sup>。

## 9-3 英国医学研究評議会

### 9-3-1 組織概要

英国医学研究評議会(The Medical Research Council: MRC)は英国政府の予算で運営されている公的医学研究機関で、独自の研究所のほか、大学や病院、その他の研究機関で実施される、あらゆる医学分野の研究を支援している<sup>125</sup>。実験室での基礎研究から臨床試験に至るまで、世界最先端の医学研究を実施することで健康の改善に努め、特に実際の治療に大きく役立つタイプの研究を重視している。また、優秀な研究者を輩出することや、英国の生活の質や経済競争力を高める知識や技術の進歩と普及に貢献することなどもMRCのミッションに含まれている<sup>126</sup>。

MRCは、イノベーション・大学・職業技能省(Department for Innovation, Universities and Skills: DIUS)を通じて議会から予算を受け取っている。支援する研究の選択は独自の裁量で行っているが、厚生省(Department of Health)やMRC以外の研究評議会、産業界、その他の関係者などと協力して、英国の医療において研究の必要性がある分野の特定を行っている。

MRCには国内外に4,000人以上の職員がおり、MRCの支援を受けて研究活動を行っている研究者の数は約3,000人にのぼる。2007年度(2007-2008)の研究支援総額は5億7,900

<sup>121</sup> <http://kidneyresearchuk.org/content/view/14/43/>

<sup>122</sup> <http://kidneyresearchuk.org/content/view/16/35/>

<sup>123</sup> <http://kidneyresearchuk.org/content/view/499/658/>

<sup>124</sup> <http://kidneyresearchuk.org/content/view/63/90/>

<sup>125</sup> <http://www.mrc.ac.uk/About/index.htm>

<sup>126</sup> <http://www.mrc.ac.uk/About/Missionstatement/index.htm>

万ポンドで、同年度に新たに支給されたグラントの数は 300 以上にのぼっている。また、研究支援以外にも若手研究者の訓練やフェローシップなどにも 5,800 万ポンドを投じた<sup>127</sup>。

MRCを統括しているのはMRC理事会(MRC Council)で、理事長(Chairman)以下、10 人から 18 人ほどのメンバーで構成されている。研究支援の決定は、分野別に設置されている研究評価委員会(Research Board)が行う。研究評価委員会には、感染・免疫(Infections and Immunity Research Board: IIB)、神経科学・精神衛生(Neuroscience and Mental Health Board: NMHB)、分子・細胞医学(Molecular Cellular Medicine Board: MCMB)、人口・システム医学(Population and Systems Medicine Board: PSMB)の 4 つがあり、公募に寄せられた研究企画が外部の審査員によって評価された後に各研究評価委員会が担当分野に該当する研究企画について支援の是非を決定する仕組みとなっている<sup>128</sup>。

### 9-3-2 評価に関連する取り組み

MRCでは外部専門家による審査と、MRC内部の研究評価委員会による審査の 2 段階に分けてグラント審査を行い、特に、研究内容の科学的重要性、医学の進歩に貢献する可能性の高さ、グラントを支給する必要性と妥当性、という 3 つの点を審査において重視している<sup>129</sup>。また、倫理面や研究参加者へのリスクについても検討される。第 1 段階の外部専門家によるピアレビューにおいては、英国の専門家以外にも、適宜、外国の専門家が審査員として評価に参加する<sup>130</sup>。MRCの研究公募には多数の応募が寄せられるため、この段階で有望な研究企画だけが選ばれて、第 2 段階の研究評価委員会による審査へと進む。審査員のコメントは、全ての応募者にフィードバックされる。

第 1 段階の審査を通った申請者は、審査員のコメントに対して返答や説明を行う機会を与えられ、その内容は研究評価委員会による 2 次審査の考慮対象に含まれる。また、新しい研究者による応募企画はそれ以外のものとは別に考慮され、新しい研究者向けに取り分けられている予算からグラントが支給される。グラントの受給者が決定すると、第 2 次審査の対象となった全ての研究者に審査結果とその理由が通知される<sup>131</sup>。

---

<sup>127</sup> <http://www.mrc.ac.uk/About/Factsfigures/index.htm>

<sup>128</sup> <http://www.mrc.ac.uk/Ourresearch/Boardpanelsgroups/index.htm>

<sup>129</sup> <http://www.mrc.ac.uk/Fundingopportunities/Applicanthandbook/Grantcalls/Assessmentprocedure/index.htm>

<sup>130</sup> <http://www.mrc.ac.uk/Fundingopportunities/Applicanthandbook/Grantcalls/Assessmentprocedure/index.htm>

Stage 1-External Peer Review

<sup>131</sup> <http://www.mrc.ac.uk/Fundingopportunities/Applicanthandbook/Grantcalls/Assessmentprocedure/index.htm>

Stage 2-Research board/panel assessment

---

## 10 オランダ

---

### 10-1 オランダ大学協会

#### 10-1-1 組織概要

オランダ大学協会 (Association of the Netherlands Universities: VSNU) は、研究重視型のオランダの大学 14 校の団体であり、研究や教育、知識の移転、ファンディング、人事などの分野において、これら 14 大学に共通する利益につながる政策を推進している<sup>132</sup>。

VSNUを統括するのは、各大学の学長など、14 大学全ての代表者で構成される理事会 (General Council) で、VSNUの方針や予算などを決定する。同理事会の理事長がVSNUの会長も務める。理事会の下にはいくつかの運営委員会が置かれており、理事会に提言する役割を果たしている<sup>133</sup>。

#### 10-1-2 評価に関連する取り組み

VSNUでは 1993 年から各大学の研究の評価を実施するようになり、大学内で行われる全ての研究活動を評価の対象としてきた。なお、2003 年からは共通のガイドライン(SEP)のもとで、各大学が個別に自ら評価委員会を組織して評価を実施する方法に変わっている(一部、複数大学が共同して評価機関に評価実施を依頼する例はある)。VSNUが実施した評価では、評価される研究プログラムは 27 の分野別に分類され、各分野ごとに審査委員会 (Review Committee) が評価を実施する。全ての分野が一斉に評価されるのではなく、分野ごとに時期をずらして 4 年から 6 年の間に一度評価されるスケジュールが組まれていた<sup>134</sup>。

評価委員会はVSNUがオランダ王立芸術科学アカデミー (Academy of Arts and Sciences: KNAW) と協議のうえで選んだ 5 人から 7 人程度の専門家から成り、委員長はオランダ人専門家か、オランダの事情に詳しい外国人専門家である必要があるが、評価の公平を期するために、委員長以外の委員は主に外国人専門家を起用する方針をとった<sup>135</sup>。こうした理由で評価委員会の構成が国際的であるため、評価関連のコミュニケーションには全て英語が用いられ、最終的な評価結果も英語で出版された<sup>136</sup>。

評価においては、評価委員会は、各大学で過去5年間にわたって行われた研究について、教授陣の実績やプログラムのミッション、研究計画、プログラムの内容と主な成果、出版物などの評価材料のほか、特許や招聘講演等、指標となる情報に基づいて評価を行うスキームであった。また、研究プログラム責任者との面談や現地訪問なども補足的に行われた<sup>137</sup>。具体的には、①科学的な質の高さ(オリジナリティ、方法、研究結果の重要性など)、②科学的な生産性の高さ(インプット、アウトプット、予算、人員数、特許、論文数、招聘講演数など)、③科学の進歩への貢献度(未来の技術への応用の可能性や社会全体への恩恵)、④長期的な可能性、という4つの点について、1から5までの5段階で点数を付ける評価方法をとった<sup>138</sup>。

---

<sup>132</sup> <http://www.vsnunl.nl/web/show/id=88879/langid=42> About the VSNU

<sup>133</sup> <http://www.vsnunl.nl/web/show/id=88879/langid=42> About the VSNU

<sup>134</sup> <http://www.sussex.ac.uk/Units/spru/publications/imprint/sewps/sewp71/sewp71.pdf> p.10-11

<sup>135</sup> <http://www.sussex.ac.uk/Units/spru/publications/imprint/sewps/sewp71/sewp71.pdf> p.10-11

<sup>136</sup> <http://www.sussex.ac.uk/Units/spru/publications/imprint/sewps/sewp71/sewp71.pdf> p.10-11

<sup>137</sup> <http://www.sussex.ac.uk/Units/spru/publications/imprint/sewps/sewp71/sewp71.pdf> p.10-11

<sup>138</sup> <http://www.sussex.ac.uk/Units/spru/publications/imprint/sewps/sewp71/sewp71.pdf> p.10-11

---

## 11 フィンランド

---

### 11-1 フィンランド高等教育評価機構

#### 11-1-1 組織概要

フィンランド高等教育評価機構(Finnish Higher Education Evaluation Council: FINHEEC)は、評価に関して大学や科学技術専門学校、教育省などを援助する独立専門機関で、1995年に設置<sup>139</sup>されて以来、高等教育の質向上に貢献する役割を果たしている<sup>140</sup>。教育省傘下にある同機構は12人のメンバーから成り、これらのメンバーは大学、科学技術専門学校、学生、産業界などから選出されて一定の任期を務める。同機構の意思決定は、事務局長(Secretary-General)率いる事務局(Secretariat)が行う<sup>141</sup>。

FINHEECの任務は、高等教育機関や教育省による評価作業を援助することや、技術専門学校の認可のための評価を行うこと、高等教育機関の活動の評価や高等教育政策関連の評価を計画すること、評価における国際協力に携わること、高等教育の評価に関する研究を促進することなどで、評価と専門知識によって、高等教育に長期的発展をもたらすことを目指している<sup>142</sup>。

#### 11-1-2 評価に関連する取り組み

FINHEECは主に、①大学や技術専門学校などの高等教育機関が教育の質を確保するために用いているシステムの監査、②教育分野のセンター・オブ・エクセレンスの評価、③テーマ別評価と教育分野の評価、など3種類の評価を行っている<sup>143</sup>。

評価プロセスは評価の種類や内容によって異なるが、基本的な流れとしては、①まず評価を行うことが決まるとFINHEECが運営委員会を設置し、②この運営委員会が外部評価チームのメンバーを提案し、評価計画をたてる。③次に運営委員会の提案をもとにFINHEECが外部評価チームを任命し、計画を承認する。④評価の対象となった高等教育機関は自己評価報告書を作成して外部評価チームに提出する。⑤外部評価チームが評価対象の高等教育機関を訪問し、評価報告書を作成する。⑥評価報告書が発表される、という順序で作業が進められる。

FINHEECは高等教育の評価における国際協力にも携わっており、特に欧州の高等教育政策関連の協議に積極的に参加しているほか、他国の高等教育評価機関との協業も行っている。FINHEECの外部評価チームに外国からの審査員を起用することで、高等教育機関評価における国際協力関係が強まり、評価方法や関連知識の他国との共有も活発化している<sup>144</sup>。

---

<sup>139</sup> <http://www.sussex.ac.uk/Units/spru/publications/imprint/sewps/sewp71/sewp71.pdf> p.16

<sup>140</sup> <http://www.finheec.fi/index.phtml?l=en&s=5>

<sup>141</sup> <http://www.finheec.fi/index.phtml?l=en&s=5>

<sup>142</sup> <http://www.finheec.fi/index.phtml?l=en&s=28>

<sup>143</sup> <http://www.finheec.fi/index.phtml?l=en&s=30>

<sup>144</sup> <http://www.finheec.fi/index.phtml?l=en&s=33> International Activities

---

## 12 ノルウェー

---

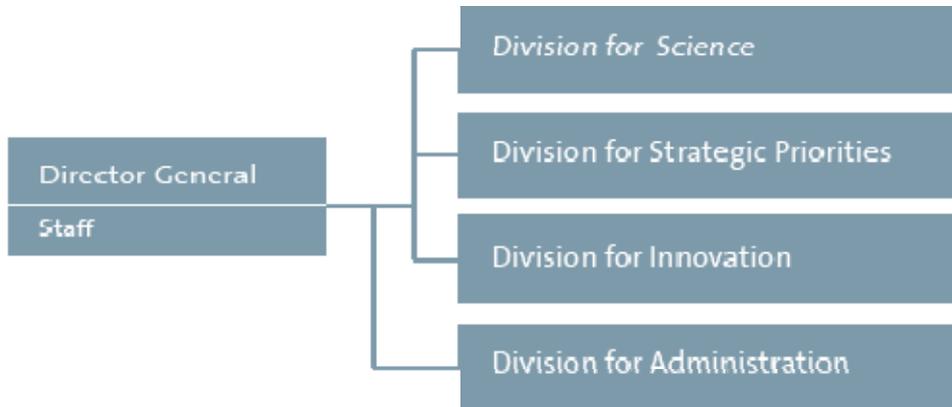
### 12-1 ノルウェー研究会議

#### 12-1-1 組織概要

ノルウェー研究会議 (Research Council of Norway: RCN) は、ノルウェーの研究戦略の開発と実施を担当する政府機関であり、ノルウェーの知識基盤の拡充と基礎・応用研究におけるイノベーションの推進を任務としている。また、研究分野における国際協力も積極的に奨励している<sup>145</sup>。

RNCの主な役割は、①研究政策に関する政府の諮問機関として、リサーチニーズの特定や優先的に行うべきリサーチについて提言する、②目標に焦点を合わせた研究ファイナンスを実施することにより、国家的な研究政策を実践する、③研究者や研究資金提供者、研究の成果を活用する人々、その他、研究界に関連のある様々なセクターや研究分野の関係者たちが集まる機会を提供する、という3点である<sup>146</sup>。RCNはまた、①研究の質の向上、②イノベーション研究の奨励、③研究界と一般社会による話し合いの拡大、④ノルウェーの研究の国際化、⑤若手研究者の育成、という5つの目標を掲げている<sup>147</sup>。

RCNを統括しているのは事務局長 (Director General) で、その下に、科学、戦略的優先研究、イノベーション、という3つの研究部門と事務部門があり、全体の職員数は約350人となっている。



出典：RCN<sup>148</sup>

図6 RCNの組織図

---

<sup>145</sup> <http://www.forskningsradet.no/en/Article/The+Research+Councils+vision+and+mandate/1195592857001>

<sup>146</sup> 同上

<sup>147</sup> 同上

<sup>148</sup> <http://www.forskningsradet.no/en/Organisation/1138785841802>

### 12-1-2 評価に関連する取り組み

RCNでは、研究公募への応募研究企画の選抜にあたり、まず外部の専門家による審査を行った後に、その公募のプログラム委員会 (program committee) か、研究の内容に関連性のあるRCN研究部門の研究委員会 (research board) による評価作業を行う。外部審査は通常、2人以上の専門家に依頼することになっており、この2人の意見が大きく異なる場合には3人目の専門家に評価を依頼することもある<sup>149</sup>。また、複雑で規模の大きい研究などは最低3人の外部専門家が評価を行う方法をとっている。審査員は、国内の著名な科学者のほか、外国の専門家にも依頼している<sup>150</sup>。RCNのウェブサイトには、これら審査員のリストが公開されている<sup>151</sup>。

---

<sup>149</sup> <http://www.forskningsradet.no/en/Application+processing/113882215874>

<sup>150</sup> <http://www.forskningsradet.no/en/Referees/1184159007067>

<sup>151</sup> <http://www.forskningsradet.no/en/Referees/1184159007067> リストはノルウェー語のみ。

---

## 13 ロシア

---

### 13-1 モスクワ大学

#### 13-1-1 組織概要

モスクワ大学(Lomonosov Moscow State University)は1755年創立の国立総合大学で、約4万人の学部生と約7,000人の大学院生が学んでいる。教授や講師の数は4,000人以上で、研究員も約5,000人いる。また、毎年約2,000人の留学生を受け入れている<sup>152</sup>。

#### 13-1-2 評価に関連する取り組み

欧州では、1999年にイタリアのボローニャで採択されたボローニャ宣言<sup>153</sup>に従い、2010年までに欧州の高等教育制度にある程度の統一性を持たせるためのボローニャプロセスという取り決めに沿った高等教育機関の改革が進められている。同プロセスでは、学部、修士課程、博士課程の3課程の確立と教育の質の保証、各課程の修業年数や単位制度などについて欧州の大学間で互換性を持たせることなどによって欧州の大学の競争力を高め、欧州以外からの学生や研究者にとって魅力的な研究の場とすることを目指している<sup>154</sup>。

モスクワ大学では、このプロセスを進める中で、大学の組織評価において外国からの評価者を招く必要があるとの見方を示している<sup>155</sup>。モスクワ大学によって英語で公開されている評価関連情報は見つからなかった。

ロシアの経済省(Ministry of Economy)は、ボローニャプロセス実施に向けた2005年から2010年までの5ヵ年計画の中で、ロシアの教育機関に対して①評価プロセスに外国の専門家の意見を取り入れることや、②欧州高等教育質保証協会(European Association for Quality Assurance in Higher Education: ENQA<sup>156</sup>)へのロシアの加盟を支援すること、③高等教育の質保証機関の国際的ネットワーク(International Network for Quality Assurance Agencies in Higher Education: INQAAHE<sup>157</sup>)などと合同で研修会を企画することなどを義務付けている<sup>158</sup>。

---

<sup>152</sup> <http://www.msu.ru/en/>

<sup>153</sup> [http://www.bologna-bergen2005.no/Docs/00-Main\\_doc/990719BOLOGNA\\_DECLARATION.PDF](http://www.bologna-bergen2005.no/Docs/00-Main_doc/990719BOLOGNA_DECLARATION.PDF)

<sup>154</sup> [http://ec.europa.eu/education/policies/educ/bologna/bologna\\_en.html](http://ec.europa.eu/education/policies/educ/bologna/bologna_en.html)

<sup>155</sup> <http://www.msu.ru/conf/materiali/pril-1.doc>

<sup>156</sup> <http://www.enqa.eu/> 欧州の大学における教育の質を保証するうえで、加盟各国の高等教育評価機関が行っている活動などについて情報や成功事例を共有するために2000年に設立された。現在、21カ国の37評価機関が加盟しているほか、ロシアを含む6カ国の8評価機関が加盟候補となっている。

<sup>157</sup> <http://www.inqaahe.org/> 高等教育機関の質の評価、改善、維持などに関する理論や実践について情報の収集や共有を行う目的で1991年に設立された。事務局はオランダのハーグにある。メンバーは約200機関。

<sup>158</sup> <http://www.msu.ru/conf/materiali/pril-1.doc>

## 13-2 イマニュエル・カント国立大学

### 13-2-1 組織概要

イマニュエル・カント国立大学(Immanuel Kant State University)は、1947年にカリニングラード国立教育大学として設立され、その後変遷を経て2005年に現在の名称となった。ロシアの西の端、バルト海北部の飛び地であるカリニングラードにある同大学は、学部と大学院合わせて100以上のプログラムを提供するロシア西部最大規模の総合大学で、近年医学部を開設したほか、科学技術研究に力を入れており、研究予算も年々増えている<sup>159</sup>。

### 13-2-2 評価に関連する取り組み

イマニュエル・カント国立大学では、質の高い大学教育制度を確立してボローニャプロセスを推進している国々に囲まれているという地理的条件もあり、教育の質の保証を向上させるための改革に取り組んでいる<sup>160</sup>。同大学では、この質の保証をめぐる学生や職員のニーズの調査と分析、予測を続け、欧州の他の国々の大学のような透明でオープンな保証システムを築くことなどを戦略目標として掲げている<sup>161</sup>。そして、このシステムを確立していく過程で成果を評価するにあたり、大学独自の内部評価と、外部の専門家による評価の2種類が必要であるとしている。このうち、外部評価においては、ロシア国内の著名な専門家だけでなく、外国人専門家(複数の海外からの専門家グループ)による評価も行われている<sup>162</sup>。

## 13-3 サンクトペテルブルグ国立総合大学 経営大学院

### 13-3-1 組織概要

サンクトペテルブルグ国立総合大学(St. Petersburg State University)の経営大学院(Graduate School of Management: GSOM)は、21世紀の知識基盤経済においてロシアの国際競争力強化に役立つ経営分野のエリートを養成する世界一流レベルのビジネススクールを目指し、ロシアの国家教育プロジェクトの一貫として創設された経営大学院であり、1993年にカリフォルニア大学バークレー校(University of California, Berkeley)のハース経営大学院(Haas School of Business)の協力を得てサンクトペテルブルグ国立総合大学に開設された経営学部を土台としている<sup>163</sup>。

### 13-3-2 評価に関連する取り組み

GSOMでは、ボローニャプロセスに則り、諸外国のビジネススクールとの互換性があり、ビジネススクールの世界ランキングでもトップ入りするような、国際的なブランド力を持つビジネス

---

<sup>159</sup> <http://www.kantiana.ru/>  
<http://translate.google.com/translate?hl=en&sl=ru&u=http://www.kantiana.ru/&sa=X&oi=translate&resnum=6&ct=result&prev=/search%3Fq%3Dimmanuel%2Bkant%2Bstate%2Buniversity%2Bof%2Brussia%26start%3D20%26hl%3Den%26sa%3DN>

<sup>160</sup> <http://www.utu.fi/en/university/quality/russia/kuksa.ppt#259.3.Objectives>

<sup>161</sup> <http://www.utu.fi/en/university/quality/russia/kuksa.ppt#260.4.Strategies>

<sup>162</sup> [http://www.utu.fi/en/university/quality/russia/kuksa.ppt#265.9.Major steps in quality assurance](http://www.utu.fi/en/university/quality/russia/kuksa.ppt#265.9.Major%20steps%20in%20quality%20assurance)

<sup>163</sup> [http://www.gsom.pu.ru/en/about\\_som/gsom/#1](http://www.gsom.pu.ru/en/about_som/gsom/#1)

クールづくりを目指している<sup>164</sup>。2015年までに教授の数を130人(そのうち80人から90人は常勤)へと増やす計画で、そのうち30%以上を外国人とする方針を明らかにしている。また、学生数は2015年までに1,800人へと増やす見込みで、そのうち25%以上を留学生とする計画である<sup>165</sup>。

GSOMは、以下の3つの国際的なビジネススクール認定プログラムに参加している<sup>166</sup>。

- CEMS: 欧州で1988年に設立された、主要経営大学院と多国籍企業の連盟で、経営学修士号(MBA)に世界的に高い基準を設けることを目的としている。GSOMは、2006年12月にダブリンで開催されたCEMSの年次総会で加盟を認められた。
- Association of MBAs: 1967年に設立された、ビジネス関連学位の認定機関で、MBAなどのビジネス関連の学位に関する同協会の認定基準は、グローバルスタンダードとして国際的に広く認められている。2008年にGSOMのエグゼクティブMBAプログラムが同機関から認定された。
- EPAS: 欧州管理能力開発財団(European Foundation of Management Development: EFMD)による、国際的な認定プログラムで、国際的な要素を含む、質の高い経営学プログラムを詳しく国際比較した上で認定している。GSOMの経営学修士プログラムは、2008年4月にロシアの大学ではじめてEPASの認定を受けた。

---

<sup>164</sup> [http://www.gsom.pu.ru/en/about\\_som/gsom/#1](http://www.gsom.pu.ru/en/about_som/gsom/#1)

<sup>165</sup> [http://www.gsom.pu.ru/en/about\\_som/gsom/#1](http://www.gsom.pu.ru/en/about_som/gsom/#1)

<sup>166</sup> [http://www.gsom.pu.ru/en/about\\_som/accreditations/](http://www.gsom.pu.ru/en/about_som/accreditations/)

---

## 14 カナダ

---

### 14-1 カナダ自然科学工学研究審議会

#### 14-1-1 組織概要

カナダ自然科学工学研究審議会(Natural Science and Engineering Research Council of Canada: NSERC)は、カナダの発展につながる人材や発見、イノベーションなどに戦略的に投資することを任務とする政府の科学研究支援機関で、年間2万6,000人以上の大学生や大学院生の学費を支援したり、1万1,500人以上の大学教授による研究に投資しているほか、大学で行われる研究に対する民間企業からの投資を奨励する活動も展開している<sup>167</sup>。過去10年間にNSERCが基礎研究や産学協力研究プロジェクト、若手研究者の育成などに投じた額は60億カナダドル以上にのぼっている<sup>168</sup>。

NSERCは産業省傘下にあり、議会の監督下に置かれている。統括するのは理事長(President)と21人のメンバーから成る理事会(Council)で、この理事会は産官学各セクターから選ばれた著名人で構成されている<sup>169</sup>。理事会の下には、グラント・奨学金委員会と、研究パートナーシップ委員会という2つの常任委員会が置かれており、理事会の諮問機関の役割を果たしている。これらの常任委員会の下に、更に分野・プログラム別の審査委員会がいくつかあり、グラントや奨学金、共同研究プログラムなどの審査を担当している。NSERCの予算は、1978年の設立当初は1億1,200万カナダドルであったが、現在では約9億ドルへと増えている<sup>170</sup>。

#### 14-1-2 評価に関連する取り組み

グラントを支給する研究企画の審査は、審査委員会(selection committee)によるピアレビュー形式で行われ、大学や産業界、政府などから500人以上の専門家が無報酬で委員を務めている。これらの委員には、カナダ人だけでなく、外国の専門家も含まれている<sup>171</sup>。更に、約1万人の専門家が審査委員会の評価作業を手伝っている。

### 14-2 カナダ腎臓協会

#### 14-2-1 組織概要

カナダ腎臓協会(The Kidney Foundation of Canada)は、腎臓病の治療法の研究支援と腎臓病に関する知識の普及を中心に活動している<sup>172</sup>慈善団体で、1964年にモントリオールに設立された<sup>173</sup>。2007年-2008年度の公募では、33の研究センターにおける64件の研究プロジェクトに対して総額300万カナダドルの支援を行っている。これまでに研究プログラムに投資した総額は8,000万カナダドルを上回っており、支援額は年々増えている<sup>174</sup>。モントリオールの

---

<sup>167</sup> [http://www.nserc.gc.ca/about/about\\_e.asp](http://www.nserc.gc.ca/about/about_e.asp)

<sup>168</sup> [http://www.nserc.gc.ca/about/about\\_e.asp](http://www.nserc.gc.ca/about/about_e.asp)

<sup>169</sup> [http://www.nserc.gc.ca/about/about\\_e.asp](http://www.nserc.gc.ca/about/about_e.asp)

<sup>170</sup> [http://www.nserc.gc.ca/about/history\\_e.asp](http://www.nserc.gc.ca/about/history_e.asp)

<sup>171</sup> [http://www.nserc.gc.ca/funding/peer\\_e.asp](http://www.nserc.gc.ca/funding/peer_e.asp)

<sup>172</sup> <http://www.kidney.ca/page.asp?intNodeID=20235>

<sup>173</sup> <http://www.kidney.ca/page.asp?intNodeID=20252>

<sup>174</sup> <http://www.kidney.ca/page.asp?intNodeID=20235>

本部の他に、国内各地に 11 ヶ所の支部事務所がある<sup>175</sup>。

#### 14-2-2 評価に関連する取り組み

カナダ腎臓協会では研究公募への応募研究企画の審査にあたり、理事会による最終決定の前に 2 段階の評価を行っている。例えば、2008 年 10 月に締め切られた 2009 年度のバイオ医療研究グラントの審査では、まず 1 次審査としてカナダ及び外国の専門家による評価を実施し、次に同協会のバイオ医療科学委員会 (Biomedical Science Committee) が詳しい評価作業を行って理事会にその結果を報告する。理事会は、バイオ医療科学委員会の推薦を考慮に入れて、グラントを支給する研究プロジェクトを最終的に選ぶ段取りとなっている<sup>176</sup>。

---

<sup>175</sup> <http://www.kidney.ca/page.asp?intNodeID=20257>

<sup>176</sup> [http://www.kidney.ca/files/Kidney/aBRG\\_Guidelines\\_2009\\_Approved.doc](http://www.kidney.ca/files/Kidney/aBRG_Guidelines_2009_Approved.doc) p.10 Assessment of applications